



むさしの 武蔵野ゾーン

武蔵野ゾーンでは、「里地里山」に生育する植物を展示しています。

雑木林、かや場、田畑、用水路など、人が自然に手を加えて二次的に作り上げた環境を里山といいます。

里山の環境と生態系は、里地で暮らす人々が、生活に必要な資源を得るために、伐木や草刈りを行いながら大切に管理することで維持されてきました。

人工的な環境ではありますが、生物多様性は自然林に劣らず、衣食住だけでなく、燃料・遊び・芸術・医療など様々な面で人の暮らしを支えてきました。

しかし、近年の私たちの生活の変化に伴い、里山は宅地や荒れ野へと姿を変え、ともに生育していた植物たちも急速に姿を消しています。

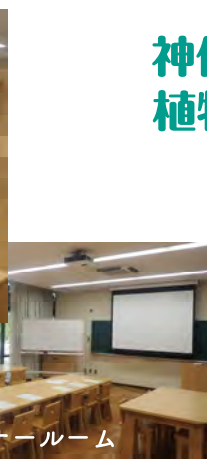
おくたま 奥多摩ゾーン

奥多摩ゾーンでは、東京都の山地で見られる植物を展示しています。

奥多摩には鍾乳洞や石灰岩からなる露頭があり、その地層にはサンゴやプランクトンなどの化石も含まれ、かつて海底であったことが分かります。

石灰岩地のアルカリ環境から山地の尾根や溪谷沿いなどの様々な環境を包括しており、それらの環境に適応した多様な種が数多く生息し、豊かな生態系が育まれています。

都内で最も標高が高く自然度の高い地域ですが、その大半は人が管理するスギやヒノキの人工林で維持されています。最近では管理放棄やニホンジカの食害、園芸目的の採取などもあり、多くの植物が絶滅危惧種となっています。



神代植物公園 植物多様性センター

がく しゅう えん あん ない ず 学習園 案内図

東京都は“高層ビルが立ち並ぶ都会”というイメージが強いですが、実は、**亜高山帯を含む山地・里地里山・温暖な海洋島**といった多様な環境を持つ「生物多様性」に富んだ世界的に珍しい都市なのです。学習園では、「**奥多摩**」「**武蔵野**」「**伊豆諸島**」の3つのゾーンを設け、それぞれの景観を再現しながら、約1,000種の植物を展示しています。

じょうほうかん 情報館

(展示室・ライブラリー・
セミナールーム・事務所)



生物多様性とは？

生物多様性には、3つの考え方があります。

- ①生態系の多様性
- ②種の多様性
- ③遺伝子の多様性

どんな環境にも固有の生態系が築かれており、多様な環境があることで、多様な種・多様な個体が暮らすことができます。

いずしょとう 伊豆諸島ゾーン

伊豆諸島ゾーンでは、調布から南に約100km以上離れた海洋島「伊豆諸島」で見られる植物を展示しています。

伊豆諸島は火山の噴火で生まれた火山島であり、今も火山噴出物(スコリア)に覆われた荒地もあれば、長い間噴火が起らず極相林になっている場所もあります。

本土よりも温暖で湿潤な海洋性気候であり、生物相も異なります。

はるか昔、伊豆諸島にたどり着いた植物たちは、気候も生態系も異なる環境の中で独自の進化を遂げたため、多くの固有種が生まれました。

もともとはニホンジカやイノシシなどの大型の草食獣が生息しておらず、植物にとっては天敵の少ない島でしたが、現在は人の持ち込んだ様々な外来種(国内外来種を含む)が野生化し、現地の植生に深刻な影響を及ぼしています。



まったく違う環境に
自生する野生植物が
一度に見られる
ユニークな植物園だよ！



0 10 20m

①案内所(事務所)	P 駐車場
②トイレ	③自転車置き場
④車イス使用者対応	⑤AED
⑥オストメイト	⑦休憩所・ベンチ
⑧授乳室	⑨説明板
⑩おむつ交換台	⑪通行不可

